

「ぶっつけ本番の死」 ルカ 23：32～43

## I 導入部

おはようございます。受難節第四日曜日、三月の第二日曜日を迎えました。今日も皆さんと共に、礼拝をささげることができますことを感謝致します。

卒業式があちらこちらで行われています。卒業生たちは、卒後式のための予行練習をするのだと思います。コンサートでもリハーサルがあります。入試の試験は終わったようですが、やはり本試験のための準備の試験、模擬試験等があるのだと思います。最近では生前葬もあって、自分が生きている時に、自分の葬儀を見ておくというようなこともあるようです。聖書には、「人間にはただ一度死ぬことと、その後に裁きを受けることが定まっている」（ヘブライ9:27）とあるように、私たちは必ず死を経験します。だからといって、死のリハーサルはないのです。イエス・キリスト様は神であり、人間でした。イエス様の十字架の死は、リハーサルも何もないぶっつけ本番の死であったのです。

10日の金曜日に、博多で九州キリスト教災害センターのNPO法人設立発足を記念して日本宣教フォーラムがありました。冒頭に、熊本地震の映像があり、最後に「**熊本を忘れないでください**」という文字で終わりました。阪神淡路の震災は20数年経ち、東北震災は、今日で7年目を迎え、何か復興の兆しが見え、少しずつ話題から離れて行っているようにも感じます。熊本は、震災から2年弱ですが、「熊本の地震を、被災した私たちを忘れないで下さい」というのが、正直な気持ちだと思うのです。

今日は、ルカによる福音書23章32節から43節を通して、「ぶっつけ本番の死」という題でお話しします。

## II 本論部

### 一、恵みはあなたの近くにある

マルコによる福音書15章27節には、イエス様と共に十字架につけられた者を「二人の強盗」と記しています。イエス様は、二人の強盗、犯罪人と共に十字架につけられました。この犯罪人は、イエス様の声の届く所にいました。十字架刑という最大の不幸の中にもありますが、その不幸の中に恵みがあったのです。彼らは、神様なしの人生、罪の人生を送り、神様と接する時がなかった。しかし、人生の最後の時、彼らはイエス様のそばに、やっとたどり着いたのです。

私たちは、創立50周年を迎えますが、救いの証し集を作成しました。皆さんが、どのようにしてイエス様のもとにたどりついたのか、どのようにして救われたのかを知ることができることは、とても素晴らしい事だと思うのです。自分から求めて教会に足を運んだ

という人もいますでしょう。家族の問題を通してイエス様のもとにたどり着いた人もいますでしょう。自分の病気や怪我を通して、痛みを通してイエス様のもとにたどり着いた人もいますでしょう。あるいは、自分の思いではなく、生まれた所がクリスチャンホームであって、神様を意識したという人もいますでしょう。クリスチャンホームに生まれて幸せだと感じる人もいますでしょうが、クリスチャンホームに生まれて不幸だと感じている人がいるかも知れません。それは、大きな恵みを恵みとして受け止められていないということだと思えるのです。皆さんが、どのようにイエス様にたどり着いたのかを知ることができるのです。ぜひ、お読みいただきたいと思います。

この犯罪人たちは、イエス様と共に十字架について、イエス様のそばにいらながらも、イエス様の声の届くところに置かれながらも、それを恵みとして受け止められなかったのです。そこに恵みがあるのに、恵みとして受け取れない。恵みを無駄にしてしまうということが私たちにもあるかも知れないのです。パウロ先生は言いました。「わたしたちはまた、神の協力者としてあなたがたに勧めます。神からいただいた恵みを無駄にしてはいけません。なぜなら、「恵みの時に、わたしはあなたの願いを聞き入れた。救いの日に、わたしはあなたを助けた」と神は言っておられるからです。今や、恵みの時、今こそ、救いの日。」（Ⅱコリント 6:1-2）と。リビングバイブルには、「神様の恵みに関するすばらしい知らせを聞き逃さないように、気をつけて下さい。神様はこう言われるからです。「歓迎の門が大きく開かれている恵みの時に、あなたの叫びはわたしに届いた。救いが差し出されている日に、わたしはあなたを助けた。まさしく今、神様はあなたがたを、喜び迎えようとしておられます。今日、救おうとしておられます。」

私たちは、神様の導きの中で、今日この礼拝に出席しています。それはどのような理由かはそれぞれでしょう。しかし、私たちは、この礼拝に、恵みの中に置かれていることは間違いのない事なのだと思うのです。いかがでしょうか？

## 二、あなたの叫びはイエス様に届いている

34節を共に読みましょう。「[そのとき、イエスは言われた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。】人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。」イエス様は、神様を知らないでいる人々のために祈られたのです。しかし、35節には、「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」と議員たちはあざ笑って言いました。兵士たちは、「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」と酸いぶどうを突きつけながら侮辱して言いました。（36-37節）

十字架についたイエス様を見ている人々は、「自分を救え」と言ったのです。39節を共に読みましょう。「十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」メシア、救い主なら救え。メシアとは苦しみからの解放者のはず。救い主なら、この苦しみから救え、と言いました。

私たちは、問題を抱えているならば、問題から解放されるように祈り求めます。苦しみからの救いを求めます。病気なら癒しを求め、死に瀕しているならば、死から守られ、生きることができるように求めます。メシア、救い主は、このような人間の求めに答えるこ

とができる、解決できる存在であるはずなのです。十字架刑につき、死を前にした犯罪人は、当然、今苦しみから、死から救えと求めたのです。「お前はメシアではないか。」とは、ののしりの言葉です。人間の求めに答えることのできないメシア、無力なメシア、メシアとは、救い主とは名ばかりのものであるかのように思えるのです。

40 設、41 節を共に読みましょう。「すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」

人生の終わりに、死を前にして、私たちは何を考えるのでしょうか。聖書には、「また、人間にはただ一度死ぬことと、その後には裁きを受けることが定まっている」(ヘブライ 9:27)とあります。ですから、私たち生きている者は、必ず死ぬことは間違いのない事なのです。いつ死ぬかはわからないのです。中野ザレ教會の北村牧師は、先週無くなられましたが、お元気でした。奥様の病気を心配し、気遣っておられました。まさか、ご自身が今死ぬとは思っておられなかったでしょう。しかし、突然の召天でした。

イエス様と共に十字架刑にかけられた犯罪人は、死の直前でした。確実に死に近づいている。もう一人の犯罪人は、イエス様のごく近くにいて、イエス様の言葉を聞いていた。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」と。そして、イエス様の人々に対する姿を見ていたのです。そして、自分の死を見つめた時、彼はイエス様に言うのです。42 節を共に読みましょう。「そして、「イエスよ、あなたの御国においてになるときは、わたしを思い出してください」と言った。」彼が言ったのは、痛みからの解放でもない。死からの救いでもない。ただ、イエス様に覚えていてほしいということです。忘れないで、こんな者が存在していたことを思い出してほしい、と願ったのです。御国とは、イエス様の国、権威あるお方の神の国です。彼の言葉は、十字架についたイエス様は、死んでしまうお方ではない。神様だという信仰なのです。メシア、救い主、あなたに私を思い出してほしいのです。彼は、「イエスよ、あなたの御国においてになるときは、わたしを思い出してください」と言える場所、自分の言葉がイエス様に届く場所に今いるのです。彼の言葉は、イエス様に届いたのです。同じように、私たちの声もイエス様に届くのです。私たちの苦しみの、悲しみの、痛みの訴えは、確実にイエス様に届くのです。届いているのです。大丈夫、あなたの心の声をイエス様は聞いているのです。

### 三、救は今です

イエス様は、即答されました。43 節を共に読みましょう。「するとイエスは、「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。」

イエス様からの完全な赦しの宣言をいただいたのです。死んだ後ではなく、生きている時、今、イエス様が救いの宣言をされたのです。彼は、イエス様がそばにいるという恵みを無駄にしなかったのです。十字架刑とは最もおぞましい刑罰です。その最もおぞましい十字架刑につけられた犯罪人は、イエス様の愛、イエス様の恵み、イエス様の憐れみ、イエス様の赦しを体験したのです。このイエス様の愛、イエス様の恵み、イエス様の憐れみ、イエス様の赦しから漏れる人は一人も存在しないのです。全ての人に与えられるものです。

この犯罪人は、「イエスよ、あなたの御国においでになるときは」と、いつの日か実現する神の国の希望を持って、「わたしを思い出してください」と言ったのです。しかし、イエス様は、「今日」を保証したのです。いつかではなく、今すぐです。イエス様を通して与えられる救いとは、死んだ後の話しではなく、今、今日の話なのです。「あなたは」とは一人のためにです。たった一人のため、それはあなたのためであるということです。

彼のこの救いは、イエス様を神様と認め、救い主と認め、自分の罪に気づき、罪を認めたことからです。自分の罪を認める所から、新しい一歩が始まるのです。

もう一人の犯罪人、最初の犯罪人は、自分の罪を認めることをしないで、他人のせい、あるいは、自分を救えないイエス様のせいにしたのです。救いを得た犯罪人も、今まで人のせいにしてきたことでしょう。しかし、十字架刑にされ、自分の死を見つめた時、そばにいたイエス様の言葉と態度を通して、神であるお方と認めたお方が、犯罪人である自分と同じ十字架刑についている姿を通して、人のせいにするのではなく、人々の罪のためにために、自分の罪のために祈る姿、愛の言葉に救い主の姿を見たのです。そして、このお方に、自分の存在を思い出してほしい。覚えていてほしい。知っていてほしい。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。」と自分の罪を認めたからこそ、イエス様に信頼することができたのだと思うのです。自分が罪ある者だと認めない限り、イエス様に救いを求めることはできないのだと思うのです。

この犯罪人は、安心して死んでいったのだと思います。なぜなら、イエス様が一緒にいると約束したからです。イエス様が一緒なら死も問題ではない。イエス様は、私たちと一緒にいるのです。私たちが肉体の痛みで苦しんでいる時も、死の恐怖に恐れおののいている時も、問題で押しつぶされそうになっている時も、何の手立てもなく絶望する時も、「あなたと一緒にだ」と約束しておられるのです。リビングバイブルでは、「約束するよ」とあります。私たちは、この約束を疑わないで信じて歩みたいと思うのです。

### Ⅲ 結論部

「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と約束されました。私たちは、天国に入る資格があるから入れるのではないのです。私たちは罪がないから救われるのではありません。私たちには罪があるのです。その罪の身代わりにイエス様が十字架で神様からの重い罰を受け、私たちが受けなければならない苦しみをイエス様が受けて下さり、私たちが流す代わりにイエス様が血を流し、私たちの命が取られる代わりに、罪のないイエス様の尊い命が取られた。死なれたのです。このイエス様の死のお陰で私たちの罪が赦され、イエス様が死んでよみがえられたことにより、私たちの救いが完成し、罪ある私たちが神様の前に義とされ、死んでも生きる命、楽園にはいることがゆるされたのです。

「熊本を忘れないでください。」大地震を経験し、復興が進みながらも苦しみの中にある私たちを忘れないでください。これは、困難の中にある人々のさけびなのです。私たちは、苦しみと困難を経験します。今、その苦しみの中にあるかも知れません。この犯罪人のよ

うに、「イエスよ、あなたの御国においでになるときは、わたしを思い出してください」と叫ばずにはおれない所に立たされているかも知れません。イエス様はあなたの叫びを聞いておられるのです。あなたの叫ぶ声の聞こえるところ、あなたのそばのおられるのです。そして、語ります。「はっきり言うておくが、あなたは今日わたしと一緒に樂園にいる」大丈夫、恐れなくていい。私が一緒だ。この週に私たちがどのような苦しみや悲しみを経験しようとも大丈夫。あなたを愛し、あなたのために血を流し、命をささげられたイエス様があなたと一緒にいるのですから、安心して全てをイエス様にお任せして、この週も歩んでまいりましょう。